

我が国で新たに発生し分布を拡大しているグンバイムシ

近年、北アメリカ原産の2種類のグンバイムシが相次いで発見された。2種類とも我が国には分布していなかった *Corythucha* 属のグンバイムシである。現在、これらは各地に広がり、身近な害虫となりつつあるので、発生状況等を紹介する。

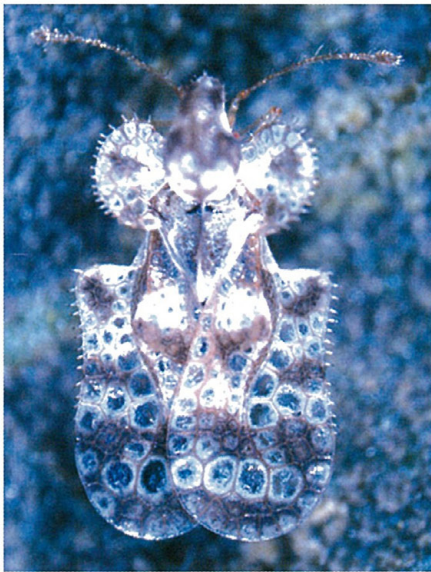


図1 成虫



図2 終齢幼虫

アワダチソウグンバイ

Corythucha marmorata (Uhler)

〔形態的特徴〕

Corythucha 属の成虫は、体の周囲や背面に鋭い棘が並んでいる（図1）。このような特徴を持つグンバイムシは我が国にはこれまで存在していないので既存のグンバイムシとは容易に区別できる。

本種の成虫は、背面から見て頭部を覆う帽状突起の先から翅の先までの長さが約3mmで、背面には不定形な茶色の斑紋があるが、翅の先方向では横条斑となる（図1）。終齢幼虫は体長約1.8mm、黄褐色で、翅芽の基部や腹部の基部がやや暗色になる（図2）。

〔分布〕

本種は元々、カナダ、アメリカ合衆国、メキシコ、ジャマイカに分布して

いたが、現在ではニカラグアからも発生が記録されている。我が国では2000年8月に兵庫県西宮市で最初に発生が確認され、その後分布を拡大し、2004年から2005年までに大阪、奈良、京都、滋賀、三重、愛知、徳島、香川、鳥取、岐阜、岡山、高知の府県から病害虫発生予察特殊報が発表されており、広域で発生している可能性が高い。

〔寄主植物〕

本種の寄主植物は、原産地では非常に多くのキク科植物があげられている。我が国ではセイタカアワダチソウで最も多く、次にオオアレチノギクでよく見つかリ、ヒマワリでも発生が認められている。各府県の特報ではその他にキクをはじめ、サツマイモやナスへの加害を記録している。なお、原産地ではサツマイモやナスの記録は見当たらない。移入昆虫が新天地で新

たな植物に寄生を拡張することは知られていることから、本種においても今後注視すべきと思われる。

〔生態及び摂食・加害状況〕

大阪府の特報では、幼虫の発生のピークは



図3 ヒマワリ被害状況



図4 セイタカアワダチソウでの被害状況（右端：健全株）

8月上旬と下旬、成虫は7月下旬と8月下旬であり、成虫で越冬すると報告されている。成・幼虫とも葉裏に寄生し、特に幼虫はアブラムシのように集団で摂食する。葉裏は排泄物で黒点状に汚れ、葉表は葉緑素が吸収され、白変する(図3)。セイタカアワダチソウでは下葉から寄生し、やがてそれらの葉は枯死、落葉する(図4)。このような状況が発生確認の目安となる。

〔防除〕

現在、本種の防除に使用できる登録農薬はない。寄主作物の栽培ほ場では、周辺のセイタカアワダチソウを中心としたキク科雑草の除去に心がける。これまでの被害状況では家庭菜園やほ場の極一部に限られているが、今後、被害が拡大するようであれば農薬登録をはじめ、本格的な防除対策の検討が必要である。

では、2001年9月に名古屋市の港湾地域で最初に発見されたことから、植物防疫所が全国の港湾地域を中心に調査したところ、新たに東京、横浜、清水、松山、北九州の各都市で発生が確認された。当初、発生密度は高くなかったが、現在では2003年の東京都病害虫発生予察特殊報のとおり、発生密度は高く、2004年には日本海側の新潟県でも発生が確認されるなど分布が拡大している。

〔寄主植物〕

原産地では、クワ科、クルミ科、ブナ科等広範囲な樹木が寄主としてあげられているが、我が国ではプラタナス類のみで発生が知られている。

〔生態及び摂食・加害状況〕

前種同様成虫で越冬し、名古屋市での記録では年間3世代を繰り返すとされる。前種同様、



図5 成虫



図6 被害葉



図7 被害木全景

プラタナスグンバイ

Corythucha ciliata (Say)

〔形態的特徴〕

成虫の体長は3.5mmから3.7mmで、前述のアワダチソウグンバイよりやや大きい。背面は全体的に乳白色でよく目立ち、翅の中央のやや前方より黒紋がある(図5)。終齢幼虫は約2mm、アワダチソウグンバイに似るが、頭部と腹部がより暗色になる。

〔分布〕

本種は元々、ロッキー山脈から東側のアメリカ合衆国やカナダに分布していたが、1964年イタリアで発生が確認され、その後20年間で中・南欧からロシアまで広域に広がった。また、その他チリ及び韓国にも侵入している。我が国

成・幼虫とも葉裏に寄生する。葉裏は排泄物で汚れ、葉表は白化し(図6)、その後加害が進めば黄変する。高密度に寄生した場合は、紅葉したかのように木全体が黄色くなる(図7)。

ヨーロッパでは、激しく加害を受けた場合には夏でも葉が落ちる、いわゆる早期落葉を引き起こすとされる。また、特に南欧では、野外レストランなどにおいて、成虫の飛び込みにより本種が不快害虫となっている。しかし、我が国では今のところそのような現象は報告されていない。

〔防除〕

樹木類のグンバイムシに対する農薬は既に登録されているが、主な発生地域が市街地であることから、使用にあたっては注意が必要である。